

6. 資料整理報告

以下には、これまでの研究会で紹介されてきた外邦図関係資料の整理や目録作製作業に関する報告をおさめる。このほかに 2004 年度の大きな成果として

石原潤・山村亜希編『京都大学総合博物館収蔵外邦図目録』京都大学総合博物館・京都大学大学院文学研究科地理学教室，177 頁，2005 年 3 月刊の刊行があることにことにおきたい。すでに刊行されている

『東北大学所蔵外邦図目録』東北大学大学院理学研究科地理学教室，244 頁，2003 年 3 月刊

とともに活用されることを期待したい。

渡辺正氏所蔵資料集の編集と刊行

小林 茂（大阪大学大学院文学研究科）

第二次世界大戦終結直後における、参謀本部から大学など研究機関への外邦図のもちだしに際し、大きな役割をはたされた元大本営参謀、陸軍少佐の渡辺正氏は、第4回外邦図研究会(2003年11月8日、駒澤大学)にご出席下さり、当時の状況についてお話し下さった。また金窪敏知氏(元国土地理院長)の「終戦前後における参謀本部と地理学者の交流、および陸地測量部から地理調査所への改組について(渡辺正氏資料をもとに)」(『外邦図研究ニューズレター』2号, 2004年)で紹介されているように、渡辺氏は現在も当時の資料を所蔵しておられる。これらは、外邦図の来歴だけでなく、終戦前後の参謀本部と陸地測量部、さらに地理調査所などに関する貴重な資料として、地図史、地理学史、軍事史など各方面から注目されるもので、その刊行が望まれてきた。

すでにこの資料については、高木勲氏(ジオテック・リサーチ)および金窪氏の研究が進んでおり、その全容がほぼあきららかになっていた。刊行に関する私たちの希望をお伝えしたところ、幸い渡辺氏はこれをゆるして下さり、準備をすすめてきた。

ただし渡辺正氏所蔵資料は多岐にわたり、またそれが作製された当時の状況に関する知識なしには、十分な理解は容易ではない。また場合によっては、資料のもつ意義について思わぬ誤解が発生する可能性も懸念された。このため、刊行に際してはまず各方面の専門家からなる編集会議を開催し、そこでの討論をもとに調査・研究をすすめ、これをもとにしっかりした解説を付すことが必要と考えられた。

これにむけて、以下のように前後4回の会合をおこなってきた。

第1回、2004年1月25日、東京都杉並区上荻の渡辺氏宅

参加者：渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳(防衛大)・小林茂(大阪大)

第2回、2004年5月16日、お茶の水のホテル聚楽

参加者：渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳・長岡正利(元国土地理院)・久武哲也(甲南大)・小林茂

第3回、2004年8月7日、お茶の水のホテル聚楽

参加者：渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳・源昌久(淑徳大)・長岡正利・久武哲也・小林茂

第4回、2004年11月28日、神田の学士会館

参加者：渡辺氏のほか、高木勲・金窪敏知・田中宏巳・源昌久・長岡正利・久武哲也・小林茂

このような協議やうちあわせをへて、2005年1月から徐々に原稿の編集を開始し、同2月には、未提出であった田中・久武両氏の原稿をのぞき、初校を全員に発送して訂正をくわえた。また同3月初旬になって、全部の原稿がそろい、さらに校正をかさねた。

以上のような経過で編集された渡辺氏所蔵資料集のタイトルは『終戦前後の参謀本部と陸地測量部 渡辺正氏所蔵資料集』で、体裁はA5判縦書き2段組、ページ数は計136に達した。編者は渡辺正氏所蔵資料集編集委員会、発行は大阪大学文学研究科人文地理学教室である。また以下のような目次構成となっている。

表紙

口絵

扉

執筆者紹介

はしがき 小林 茂

目次

本書の編集経過と構成 小林 茂

解説編

1. 『兵要地理調査研究会』について 久武哲也
2. 陸地測量部から地理調査所へ 金窪敏知
3. 史実調査部と地図の行方 田中宏巳
4. 兵要地誌類関係資料の解題 源 昌久
5. 渡辺氏所蔵地図 解説と目録

資料編

総説 1. 兵要地理資料集録（渡辺正氏資料）について 金窪敏知

総説 2. 兵要地理資料集録（渡辺正氏資料）解説
高木 勲

兵要地理資料集録（渡辺正氏資料）

1. 東亜戦争末期に本土決戦に備えて計画実施された兵要地理調査研究会に関する資料
2. 終戦時における地図等の焼却処理に関する資料
3. 陸地測量部組織の処理と内務省地理調査所設立に関する資料
4. 戦後進駐軍との折衝に関する資料
5. 兵要地誌に関する資料
6. その他（参考資料等）

附録

信濃毎日新聞連載記事「続・占領下の空白『地理調査所』物語」（第1回～第5回）

所蔵者の言葉 渡辺 正

あとがき 金窪敏知

以上のような渡辺氏所蔵資料集は、今後の外邦図に関する研究だけでなく、ひろく地図史、地理学史、軍事史などの資料としても参照されるようになると予想される。外邦図研究会にご理解をいただき、今回の刊行をお許し下さった渡辺正氏にあらためて感謝したい。

お茶の水女子大学所蔵外邦図目録の作成作業について

高槻幸枝（お茶大・院）・大浦瑞代（お茶大・院）

．所蔵外邦図について

現在、お茶の水女子大学が所蔵する外邦図の種類と所蔵枚数は表1のとおりである¹⁾。

これらは、地域ごとに厚紙の表紙が付けられた冊子状になっており、スチールの引き出しに収められ、地理学教室地図室に保管されている。なお今回の目録は、表1から海図や市街図など除いた11,023枚を対象としている。

．目録作成作業

目録作成にあたっては、山村(2004)や研究会における質疑を参考に、外邦図の所蔵状況を示すための最低限の書誌情報に絞って記載するという方針を採ることとした。また、目録の項目は、既に出版されている東北大学の目録に準拠している。

作成の手順は、東北大学の所蔵目録をベースとした確認シートを作成する、外邦図から必要な情報を読み取り、確認シートと比較、必要があれば修正する（東北大学が所蔵していないものについては、読み取った情報を新たに記入する）、確認シートの内容をパソコン(Excelファイル)に入力する、というものである。

作業は、主に学部学生のアルバイトの手を借り、長期休暇の期間中に実施した。2004年春期および夏期の作業では、使用できるパソコンが少なかったこともあり、の作業を中心に進めることとなった（については、前年度までの所蔵枚数調査と合わせて作成が終了している）。多人数の学生が関わるため、記入の要領についてある程度のルールを定め、最初に説明をおこなったが、地図ごとに判断を要することも多く、書誌情報の精度が揃っていないとは言い難い。この点については、目録に明記する必要があると思われる。

これらの作業の現時点での進捗状況は表2に示すとおりである。現在のところ、確認シートへの情報の記入は完了しており、パソコン入力が全枚数のうち30%程度

終了している。

．今後の予定

春期休暇中にパソコン入力を終わらせ、目録(Excelファイル)を完成させる予定である。2月、3月には入力に使用できるパソコンの台数が増えるため、夏期休暇中より早いペースで入力を進められると考えている。なお、今回は予算の都合もあり、紙の媒体による目録の出版は見送ることとなったが、完成した目録は、CDでの関係者への配布を予定している。

注

- 1) 所蔵外邦図の来歴や枚数調査(2002年度)の概要は、大浦(2003)を参照のこと。

文献

- 浅井辰郎(1972)東半球大縮尺図のことども、お茶の水地理、13、48-49。
- 大浦瑞代(2003)お茶の水女子大学所蔵分の外邦図に関する現状報告、外邦図研究ニュースレター、1、41-42。
- 東北大学地理学教室(2002)『東北大学所蔵外邦図目録』。東北大学地理学教室。
- 内藤博夫(2000)お茶の水女子大学所蔵の地図、地図情報、20(3)、15-17。
- 山村亜希(2004)京都大学総合博物館収蔵外邦図の目録作成作業について、外邦図研究ニュースレター、2、74-77。

表1 所蔵外邦図の種類と枚数

綴込冊子番号	国・地域	縮尺 (万分の一)	枚数 (2004年)
38-43	東亜	100-50	455
44-55	旧領土	5-2	1,034
56-67	満州	20-2.5	1,307
68-74	北支那	10-5	686
75-104	南支那	10-5	2,928
105-117	インドシナ半島	25-5	1,163
118-127	インド・マレー	12.5-5	1,030
128-130	フィリピン島	20-5	172
131-134	スマトラ	25-5	451
135-139	ジャワ	5	443
140-143	ボルネオ・セレベス	20-5	304
144-148	パプア	50-5	292
149-151	太洋州諸島	20-2.5	183
152-155	オーストラリア・ニュージーランド	25-5	324
156-160	ハワイ・アラスカ	300-5	251
161-167	航空図・市街図・陸海総合図	300-5	209
海図 1-23	日本製海図	-	1,242*
海図 24-25	外国製海図	-	166*
	合計枚数		12,640

*1972年次の調査枚

表2 目録作成作業進捗状況(2005年1月現在)

綴込冊子番号	国・地域	全枚数	確認済枚数	入力済枚数
38-43	東亜	455	455	455
44-55	旧領土	1,034	1,034	582
56-67	満州	1,307	1,307	0
68-74	北支那	686	686	0
75-104	南支那	2,928	2,928	1,354
105-117	インドシナ半島	1,163	1,163	652
118-127	インド・マレー	1,030	1,030	134
128-130	フィリピン島	172	172	172
131-134	スマトラ	451	451	0
135-139	ジャワ	443	443	0
140-143	ボルネオ・セレベス	304	304	150
144-148	パプア	292	292	0
149-151	太洋州諸島	183	183	0
152-155	オーストラリア・ニュージーランド	324	324	0
156-160	ハワイ・アラスカ	251	251	61
	合計枚数	11,023	11,023	3560

駒澤大学所蔵外邦図の整理状況について（中間報告）

大槻涼（駒澤大学・学）

．はじめに

駒澤大学は、多田文男(1900-1978)が持ち込んだとされる、多くの外邦図を所蔵している。しかし、総合的な調査はおろか、いまだ詳細なインデックスマップや目録の作成がなされていなかった。2003年11月に駒澤大学で開かれた外邦図研究会を契機として、2004年4月から駒澤大学応用地理研究所のプロジェクトの一つとして整理作業を開始した。2004年12月現在で整理した外邦図について、『駒澤大学所蔵外邦図目録』にまとめた。

．これまでの整理作業

学内で有志を募り、これまでにのべ35日にわたり整理作業を続けてきた。

駒澤大学の場合、学内における外邦図の存在はほと

んど知られていなかった。普段、人が立ち入らない、図書館の一室と地図室の2カ所に分割され保管されていることも一因であった。そのためか、所蔵枚数の把握がされていないままだった。そこで一枚一枚数え上げることから作業を開始した。

目録作成にあたり、東北大学理学研究科地理学教室(2003)との整合作業もあわせて行った。この過程で、東北大学理学研究科地理学教室(2003)にない地図を461枚発見した。

．成果

(1)駒澤大学所蔵外邦図目録

2004年12月現在で整理できた地図3280枚について目録を作成した。駒澤大学に所蔵されている外邦図のうち、地図室にあった地図を対象にしている。調査項目は、東北大学理学研究科地理学教室(2003)に準拠し

表1 駒澤大学所蔵外邦図目録に掲載した地図の一覧

大地域名	地域名	枚数	%	大地域名	地域名	枚数	%	
東アジア	東亜1/50万	57	2.5	オセアニア	ニューギニア島	241	10.9	
	日本	12			ハワイ	61		
	韓国および北朝鮮	6			ソロモン諸島	16		
	台湾	3			ミクロネシア	10		
	韓国	1			ビスマルク諸島	6		
	満州1/50万	1			ニューカレドニア	5		
	千島列島	1			マーシャル諸島	4		
計	81	西部パプア	3					
東南アジア	インドネシア	932	42.5		太平洋	3		5.1
	仏領インドシナ	123			ニューギニア	3		
	マレーシア	123		ビスマルク群島	2			
	フィリピン	59		グアム	1			
	インドネシア・セレベス島	53		ニューアイルランド島	1			
	タイ	38		計	356			
	インドネシア・ボルネオ	34		オーストラリア	165	1.5		
	ビルマ	21		ニュージーランド	1			
	インドネシア・サンギヘ島	5		計	166	0.1		
	仏領インドシナ	5		アメリカ	アラスカ		41	
計	1393	アリューシャン	7	0.7				
南アジア	インド	1137	36.9		フランス	2		
	セイロン	58		計	2			
	インド・タイ	16		ヨーロッパ	フランス	2		
	計	1211		その他(調査中を含む)	計	23		

ている。

内訳:東アジア:81 枚

東南アジア:1393 枚

南アジア:1211 枚

オセアニア:356 枚

オーストラリア:166 枚

アメリカ:48 枚

ヨーロッパ:2 枚

その他(調査中を含む)23 枚

地域ごとの詳細な枚数を表1に示す。東アジア地域よりも東南アジア地域が際立って多かった。これは、多田文男が踏査した中国を含んでいないためと思われる。これらの地域は分割され図書館に所蔵されていると考えられ、今後の整理で明らかになるであろう。

(2)駒澤マップアーカイブズニュースレター

作業の詳細を報告する目的で、『駒澤マップアーカイブズニュースレター』を創刊した。12月現在でNo.1からNo.3まで発行している。

・今後の課題

今後以下の作業が必要になっている。

- (1) 作業工程の再検討
- (2) 目録とインデックスマップの充実
- (3) 保管法と補修法の確立
- (4) 地図の識別

駒澤大学の場合、ほとんどの外邦図が、通気性の乏しいスチール製のキャビネットに納められている。このため劣化や汚損が進んでいる地図もある。早急な保管法と補修法の確立が必要になっている。また、大量の地図を管理するために一枚一枚の地図を如何に識別し、登録漏れや重複を避けるかが問題になっている。直接、地図に番号を書き込む訳にもいかず、対策に苦慮している。

文献

東北大学大学院理学研究科地理学教室 2003. 『東北大学所蔵外邦図目録』



これは駒澤大学に所蔵されている貴重な地図の整理状況を皆様にご覧いただくためのニュースレターです。不定期で発行します。

地図の拠点づくりを目指しています

駒澤大学は、たくさんの地図を持っている大学です。その一部は小池一之先生が図書館長を務めていらっしゃったとき、「駒澤大学図書館所蔵地図目録-1」として整理されました。この目録の中に、「未整理」となっている地図が含まれています。この「未整理」地図にこそ、他では見られない幻の地図、面白い地図から、研究に必要な地図があるらしいということが分かってきました。地理学科や歴史学科の先生が地図を探そうとされたことがあると伺いました。しかし、いったいどの・どんな・いつの地図が、どこにあるのかさえない状況でした。先生に限らず、学生にも、誰にでも見たり使ったり、地図を楽しんでもらいたいと考えています。

地図の整理を始めるきっかけとなったのは昨年11月に駒澤大学で開かれた「外邦図研究会」でした。そこで駒澤大学にあまり知られていない地図が沢山あり、かつ、見てみたいと思ってもなかなか見れないことを知りました。その時は、地図の整理についてはほとんど知識も技術もありませんでした。

私たちは今のうちからこの貴重な財産をきちんと整理していこうと考えました。応用地理研究所のプロジェクトの一つとして位置づけ、博物館学講座の太田喜美子先生のご指導を仰ぎ着手しました。地理学科と歴史学科の有志学生を中心に、多くの方の協力のもと進めています。

今年は、体育館一階にある、地図室に保管されていた外邦図（後述）の整理を進めています。当初、保管されている地図の正確な枚数や地図の整理はどのようにすべきか分からず、試行錯誤の連続でした。今夏には埼玉県小川町で合宿を行いました。地図室にある外邦図については今年度中の目録完成を目指し作業を進めています。
大槻 涼（地理学科4年）

外邦図とは？

幻の秘密の地図

外邦図とは、戦時中に日本陸軍参謀本部陸地測量部が作成した外国の地図のことである。日本周辺諸国は勿論、シベリアやインド、アジア大陸内陸部や、太平洋のほぼ全域、オーストラリア、北米などにもおよぶ広大な範囲にわたり作成された。多くの地図は「極秘」「秘」扱いのような軍事機密となっていたためその存在があまり一般に知られてこなかった。実際に戦地での任務が完了するとその場で焼却処分されたという。地図の使用目的から、秘密裏に測量され、作成されたために、地図作成過程では戦死や、海外で病死された方も多い。しかし全てが陸地測量部の測量によって作成されたわけではなく、外国で発行された地図の地名や凡例を日本語に書き換えるなどの調整をして、完成したものも含まれている。

第二次世界大戦が終結した際に外邦図はそのほとんどが処分・散逸した。しかし、この中から処分・散逸を免れ、現在まで残っているものがある。それらは現在、東北大学、東京大学、お茶の水女子大学、大阪大学、京都大学、広島大学などの大学や、国立国会図書館、岐阜県図書館世界分布図センター、国土地理院などに所蔵されている。所蔵数が最大の東北大学は1995年から整理を開始し、「東北大学所蔵外邦図目録」（2003）を完成させている。

駒澤大学には多田文男先生が持ち込み、整理が不完全のまま地図室や図書館に保管されていた。駒澤大学は去年開かれた「外邦図研究会」を契機として準備を始め、今年から「東北大学所蔵外邦図目録」を元にやっと整理を始めた状態である。他の大学では整理が進み、駒澤大学が一番出遅れている。早急に整理を進めることが重要である。
上條 孝徳（地理学科2年）

これは駒澤大学に所蔵されている貴重な地図の整理状況を皆様にご紹介するためのニュースレターです。不定期で発行します。

活動報告Ⅰ（4月から7月の作業）

4月15日：体育館地図室から神文化歴史博物館へ運び出し・数量把握
4月28日・5月26日：仮番号の貼付
6月9日・16日：整理番号の貼付
6月16日・23日・29日・30日：地図の読み込み
6月30日・7月7日：冊ごとの枚数把握

4月から、手探りの状態でしたが、地図の整理を開始しました。駒澤大学の外邦図の場合、その正確な枚数すら把握できていませんでした。そこで地図をキャビネットから出し、数えることが最初の仕事でした。作業スペースの関係上、一度地図室から運び出し作業をしました。一枚一枚の地図を識別するために、番号をつけました。地図の読み込みは「東北大学所蔵外邦図目録」との整合を中心に行いました。



整理番号貼付の様子

活動報告Ⅱ

4月21日（財）地図情報センター（神田神保町）の村野京一さんに地図整理法とデータベース作成・運用の方法をご指導いただきました。
6月19日・20日外邦図研究会（お茶の水女子大）に参加
7月15日外邦図に関する説明会を駒澤大学第1研究館1階で開催

第1回夏合宿

7月合宿を行い、一気に整理を進めることになりました。朝9時頃から深夜まで約3000枚の地図と格闘しました。作業の中で、『東北大学所蔵外邦図目録』にない地図の発見も相次ぎました。

合宿の概要

日時：2004年7月18日から23日まで
場所：埼玉県比企郡小川町 小川町ラドンセンター



読み込み作業の様子

駒澤大学で今回発見された外邦図の一例

地域名	記号	図幅名	縮尺
フィリピン	呂宋島5万分1図 第14號	ツゲガラオ	1:50,000
フィリピン	呂宋島5万分1図 第42號	チタリ	1:50,000
フィリピン	呂宋島5万分1図 第3239號	サンファピア ン	1:50,000
ビルマ	No.86 M/N.W	BURMA	1:125,000
ビルマ	No.85 K/N.E & K/N.W	BURMA	1:125,000
ビルマ	No.85 L/S.W	BURMA	1:125,000

第1回夏合宿は、連日の熱さと埃にもめげず約3000枚の地図を短時間のうちに集中的に整理できました。多くの発見があり、地図についても多くのことを学ぶことができました。これを機会に地図の整理も弾みがつくのではないかと考えています。

合宿終了後に参加した学生から感想を募りました。

私が外邦図の整理に参加したのは、私が軍事史を専攻しているので興味が湧いたためです。今回の整理を通じて貴重な歴史的史料の整理し、後世に残す事の重要性を実感することができました。非常に良い経験ができたと思います。

青木 浩平 (歴史学科4年)

私は、外邦図が何なのか、どんなことをするのかも知らずに参加してしまいました。しかし作業を通して、地図の価値や、地図を見る楽しさを改めて感じることができ、とてもよい経験になったと思っています。熱心な2年生から学ぶことも多く、卒論にむけて気合いを入れ直すきっかけにもなりました。

磯谷 有記 (地理学科4年)

地図についての知識がまったく無い状態だったのでかえってみなさんの足手まといになったかと思えます。最初はあの外邦図の価値が分かりませんでした。しかし作業に参加していくにつれて大変貴重なものだったことが分かりました。歴史的にも大変価値があり、今後いろんなテーマで研究ができると思います。駒大に残っていた外邦図が今後どうなるかは地理学科のみなさんにかかっています。貴重な資料です。どうか役立たせてください。微力ではありますが私にできることがありましたらなんなりと申して下さい。

最後にみなさんの研究のさらなる発展をお祈りいたしまして結びとさせていただきます。

梶田 弓枝 (歴史学科4年)

外邦図というたいへん貴重な生の資料の整理作業にたずさわられて誇りで、自分は幸せだと思いました。そして3000枚を超える外邦図の整理作業を終え、どんなこともやればできると自信がついた。作業の終わっている東北大学や京都大学に比べたら、まだまだ通過点に過ぎないが駒澤大学の名にかけて、すべての外邦図を片付けたいと思いました。

後藤 慶之 (地理学科2年)

私が外邦図の整理作業を行うきっかけとなったのは、地図学の授業中に中村和郎先生が外邦図の紹介をし、作業者の募集を知ったからである。こんなにも重要で価値のある地図が駒澤大学にある。ましてや保存状態があまり良好ではないと聞いて、いてもたっても居られなくなった。

大学での作業は手探りの状態であったが、夏休みを利用しての合宿にも参加することになった。3000枚以上に及ぶ地図室の外邦図を梱包し合宿先に送った。一週間あまりの合宿で一応の終わりを迎えることが出来た。しかし作業は一筋縄にいかず試行錯誤の連続であった。この経験を生かしこれからの整理作業を進めていきたいと思う。そして一日も早く駒澤大学の外邦図目録を完成させたい。

上條 孝徳 (地理学科2年)

私は今年の5月に地図学の授業で、外邦図の作業のことを聞き、「駒澤のために」という思いで参加をしました。今から約60年前に終わった戦争で使われたということもありますが、地名の表記、地図記号の使い方に独特な面がある他、今夏埼玉県で行われた合宿では新発見の物もありました。

前にも書いたように外邦図はその誕生の背景は決して良いものではないですが、駒澤地理の貴重な財産を守っていきたいです。

中田 帆貴 (地理学科2年)

仕事は地味で、単純作業の連続です。しかも外邦図が古い分ホコリまみれで、しかも地図が汚れないように、また飛ばないように窓を閉め切って作業をします。このおかげで作業部屋はずこくホコリっぽく、空気は最悪な状態で、日に日に体調が悪くなります。しかし一年次から地理を専門的にやりたかった私にとって地理関係で専門的な事に立ち会える喜びは格別です。これからも外邦図の整理をがんばりたいです。

吉原 輝也 (地理学科1年)

外邦図というものが何なのか全く分からないのに、整理に参加しました！そもそもそんなにわざわざ小川町までいったんですか？はじめての土地でワクワクしました。作業も少ししか手伝ってないので詳しくは何なのか分かりません。地図の第一印象はなんといいもきたないなあと思った。鑑定団にでてくる絵とか図とかみたいな綺麗だと思ってた。破れたりしてそんなんでいいのかなあなんて思ったりもしました！

森田 純平 (地理学科1年)

これは駒澤大学に所蔵されている貴重な地図の整理状況を皆様にご覧いただくためのニュースレターです。不定期で発行します。

9月25日・26日に広島大学で開かれた日本地理学会で「外邦図の基礎的研究

——旧日本軍が作製したアジア太平洋地域の地図の活用をめざして——

（オーガナイザー） 小林 茂（大阪大）・田村俊和（立正大）・石原 潤（奈良大）」がありました。外邦図の研究に携わっている全国の研究者が

広島大学の日本地理学会に参加して

9月26日の午後から外邦図の学会発表があるということで、4年生の大槻さんと2年の上條と後藤の3人で、日帰りの強行日程で広島大学へ行きました。朝5時に家を出て朝一番の7時の飛行機で向かいました。

私たちは、今年5月から駒澤大学にある外邦図の整理をやってきて、夏休みにも合宿をして集中的に整理をしてきましたが、その整理を東北大学に整理の仕方などを参考にしてきました。広島大学で開かれた学会には、その東北大学をはじめ全国で外邦図を研究しているたくさんの人たちが一堂に集まりました。



会場の様子

発表を通して外邦図が流出した複雑な経緯が分かり、日本軍は満州をたくさん作っていたことや、アメリカのワシントンやイギリスやカナダや旧ソ連にも秘密だった外邦図があるということが分かりました。ほかにも、朝鮮半島の外邦図の作成過程について発表がありました。朝鮮半島は、場所により作られる年代が違ったりしていて、その時代の土地の重要度の違いが分かりました。私が一番強く感じたのは、外邦図を作るにあたって、たいへんな労力、たくさんの犠牲などいんな人々の思いが詰まっているということです。



私たちは会場で、駒澤大学にある外邦図の本格的な整理を始めたことを参加者に報告し、東北大学の目録*には記載のない、350枚近くの外邦図のリストを配布しました。

駒澤大学には海図を含めてまだまだ数万枚の外邦図があります。私たちは外邦図については知らないことばかりなので、この学会に参加してとても勉強になったし、今後の作業で疑問に思っていたことも教えてもらい、参考になりました。これからも外邦図についての集まりがあるということなので積極的に参加したいと思いました。外邦図の整理もまだまだたくさんあり大きな壁ばかりでたいへんですが、いろいろな方々の力をおかりしながら頑張っていきます。

後藤 慶之（地理学科2年）

*「東北大学所蔵外邦図目録」（2003）：東北大学は95年から外邦図の整理を始めました。現在多くの大学がこの目録を整理の参考に使っています

「空中写真要図」(大阪大学文学研究科人文地理学教室蔵) 目録

外邦図研究グループでは、平成 13 年度より国内・国外の諸機関に残されている外邦図の所蔵状況について調査を進めてきた。2002 年夏には、久武哲也氏(甲南大)と今里悟之氏(当時阪大文学研究科、現在大阪教育大)により、アメリカの諸機関における外邦図の所蔵調査がおこなわれた(今里・久武、2003)。これに際し、アメリカ議会図書館(ワシントン)では、大量の外邦図とともに日本軍撮影と考えられる空中写真が所蔵されていることが明らかになった。当時の景観の記録として、空中写真にはすぐれた点が多く、2003 年夏には、長澤良太氏(鳥取大)と今里氏がこの空中写真のかなりの部分(723 枚、中国安徽省・江蘇省)をスキャンして帰国し、現在この予備的な研究が開始されている(今里・長澤・久武、2004、長澤・今里・渡辺、2004)。

元陸地測量部員であった高木菊三郎によれば、旧日本軍は国外において広範囲に空中写真を撮影したという(高木著・藤原編、1992、281 - 282 頁)。ただし、具体的にどの地域を撮影したものなのかについては十分に解明されていない。そこで、この点を解明するため、空中写真の探索とあわせて、外邦図のなかにみられる、空中写真によって作製された地図(空中写真要図)を収集し、その目録を作製する作業を開始した。まず、古書店のカタログに見える空中写真によって作製されたと判断できる地図を購入し、つぎに、これらについて一枚一枚目録カードを作製しリスト化した。購入した地図の書誌情報については、すでに大阪大学附属図書館の検索システム(OPAC)に入力済みで、Web 上で検索することが可能である。

以下では、購入した空中写真要図(大阪大学人文地理学研究室蔵)のリストを掲載するとともに、作業過程で知り得た空中写真要図作製の概要に関する知見もまじえて、若干の解説を加えたい。

なお、これらの空中写真要図の多くは、東北大学(東北大学大学院理学研究科地理学教室、2003)および京都大学(近日刊行予定)の目録にも見出すことができる。さらに、これら 3 機関に国土地理院蔵の『国外地図目

録』・『国外地図一覧図』(1953 年)の目録を加えた空中写真要図の目録およびその図化範囲については、「アジア太平洋地域における旧日本軍の空中写真による地図作製」と題して発表済みである(小林・渡辺・鳴海、2004)。ただし、その中に添付した空中写真要図の目録は、地図群として整理したため、一枚一枚の地図の書誌的情報については明記していない。そこで、大阪大学人文地理学教室の所蔵分については、一枚一枚の地形図について目録を作製した。

下表は、2002 年 4 月以降、第一書房および臨川書店より購入した空中写真要図の目録である。その総数は、2005 年 2 月時点で 151 枚におよぶ。地域的には支那・フィリピン・ボルネオ・インド・パプアニューギニアといったアジア・太平洋地域にわたっている。作製時期をみると、多くは第二次世界大戦参戦後であるが、旧満州、黄河沿岸、陝西省、上海近傍などは、参戦以前に作製されたものである。縮尺については、「空中写真測量要図(圖化満航)」という表題をもつ図は、1 万～1.5 万分の 1 と大縮尺であり、これら以外は 2.5 万～10 万分の 1 で作製されている。なお、この「満航」は「満州航空」の略で、国策会社として、旧日本軍の空中写真による地図作製に大きな役割をはたした(西尾、1969、132～135 頁、満州航空史話編纂委員会、1972、小島、1991 など)。つぎに製作者をみると、陸地測量部が多いが、支那派遣軍や威第一一六〇部隊といった出先の部隊が作製している場合も少なくない。これは空中写真による地図作製が恒常化すると、出先の部隊が自らで地図作製をおこなったことを示唆しており、その組織や陸地測量部との関係が注目される。

怒江、インド、セレベス・モルカ、パプア、ボルネオの地図には、図郭の四隅に経緯度が記載されている。一般に経緯度を記入するには、地表での三角測量のような作業が不可欠である。また、現地での測量作業が困難であったと考えられるケースでは、既成の外国製地形図に記載されている経緯度を参照した可能性が高い。

ところで、大阪大学人文地理学教室蔵の空中写真要図のなかには、東北大学および京都大学に所蔵されていない空中写真要図も存在する。

1943年撮影の中国雲南省の怒江(5万分の1)と題する7枚は、その1つである。これらは、いわゆる「援蒋ルート」を遮断する作戦に関係し、作製主体の威第1160部隊とは、南方軍を示している(秦編、1991、501頁)。このなかで「恵通橋」と題する地図は、「援蒋ルート」のなかで要に位置する恵通橋を中心として、怒江(サルウィン川上流)の峡谷の兩岸を図示している。橋は日本軍の進撃にともない1942年5月に破壊されるが、雲南遠征軍(連合軍)の攻勢にともない、1944年7月に再建された。その前後には、橋の南西側にあった日本軍の守備陣地をめぐる激戦がおこなわれた。ただし、この製図の年・月からみると、この図は戦場では使用されなかった可能性が高い(本ニューズレターの7. 展示、大阪大学総合学術博物館、第3回企画展の展示資料「恵通橋」を参照)。

1942年撮影の東インドのガウハティ・ポルダムギリ間と題する15枚およびシルガード・ミメシン間の31枚も他大学にはない地図群である。両者は、縮尺が5万分の1で、経緯度が記載されている。「南方仮図式」を採用しており、鉄道・道路・工場地・小物体・地類と5つに大別され、凡例は23種類ある。前者はガウハティとポルダムギリの都市間を結ぶ道路沿いに作製され、一部は「印度六万三千分一図」を利用している。これは、イギリス製図であると考えられ、地名・標高は主としてこの図に依拠していることが備考に明記されている。経緯度も同様であろう。雲によって一部空白になっている図幅が多いものの、森林に関する情報は豊富で、「沙羅双樹林」や「混交密林」などといった程度まで分類されている。60年以上前の環境を知る上でも興味深い資料である。

後者は、図幅群のなかでもっとも一連の枚数が多い。地名・標高は主として「印度六万三千分一乃至二十五万分一図」に依拠している。ただし、標高・地名の記載は部分的であり、雲により不明確な部分も散在する。その場合は、道路のみ点線で記入している。図幅の多くが、「印度二十五万分一図」をモザイク状に利用しており、一図幅の半分以上がこれに依拠している場合も少なくない。シルガードとミメシン地点間を道路沿いに総

計31枚でカバーしている。

旧日本軍の空中写真測量は、1921年に陸軍航空学校の分校として開設された下志津飛行学校の果たした役割が大きい(生田編ほか、1986:87)。同校は、1924年に独立した偵察を専門とする飛行学校であり(船越、1992)、作戦計画を作成するために、各地の飛行偵察が命じられた。その飛行学校隊員の回顧記録によれば、1938年頃、「隠密搜索作戦作業」が実施され、広大な地域写真を撮影することが指示されたという(生田ほか編、1986:87)。1941年の8月にはフィリピンのパターン半島の撮影が行われた。これに座標を与えたものを重砲部隊と観測部隊の両者が持ち、上空からの射撃に用いたという。

第二次世界大戦参戦(1941年12月)の直前には、シンガポールからマレーシアのアロールスターを經由し、さらに西延のビルマ、カルカッタ西部、ランチ・カタックへと飛行したことが述べられている。大阪大学人文地理学教室蔵のものにはないが、前述の国土地理院蔵の目録には、同年に下志津飛行学校によって作製された「呂宋島」(1941年撮影・10万分1)および「ソクラー及アロールスター間」(1943年撮影・10万分1)と題する図幅が確認でき、回顧記録と整合する(小林・渡辺・鳴海、2004)。この流れで、インドのランチ・カタックに至る途中のガウハティ・ポルダムギリ間およびシルガード・ミメシン間を撮影した可能性は高く、撮影時期も合致する点は興味深い。

以上の空中写真要図は、作製時期や地域によって記載内容は多種多様であり、その図式は図群ごとに異なる。ただし、空中写真要図の作製がいかなる機構で、どのように行われたかについては不明な点が多く、今後解明すべき課題として位置づけられる。

本報告で紹介した大阪大学人文地理学教室蔵の空中写真要図は、コレクションとしては小規模なものであるが、希少性の高いものや、過去の景観を伝える環境資料としての利用に耐えうるものなども少なくない。今後、これらが多くの方の利用に供することを期待したい。

なお、下表の作製にあたっては、富岡玲子(平成16年度大阪大学文学部人文地理学教室卒業生)の尽力が大きい。

(渡辺理絵(大阪大・院))

文献

生田 惇ほか編『下志津飛行学校物語 - 陸軍偵察飛行
隊回顧 - (座談会記録)』偕行(3 回連載, ただし別刷りに
よるため巻号は不明), 1986; 87, 別刷り資料全 34 頁.
船越昭生(1992)「続・戦前日本空中写真抄史」(武久義彦
編『空中写真判読を中心とする歴史景観の分析手法の確
立』奈良女子大学文学部地理学教室) 48 - 54 頁.
秦 郁彦編(1991)『日本陸海軍総合事典』東京大学出版
会.
今里悟之・久武哲也(2003)「在アメリカ外邦図の所蔵状況
- 議会図書館・AGS Golda Meir 図書館・ハワイ大学ハ
ミルトン図書館の調査から」『外邦図研究ニューズレタ
ー1』33 - 36 頁.
今里悟之・長澤良太・久武哲也(2004)「アメリカ議会図書
館所蔵の旧日本軍撮影・中国空中写真の概況」『外邦
図研究ニューズレター2』78 - 80 頁.

小島宗治(1991)『航空測量私話 - 空と写真と戦いと』私家
版.
小林茂・渡辺理絵・鳴海邦匡(2004)「アジア太平洋地域に
おける旧日本軍の空中写真による地図作製」待兼山論
叢第 38 号日本学篇, 1-24 頁.
高木菊三郎著・藤原彰編(1992)『外邦兵要地図整備誌』
不二出版.
満州航空史話編集委員会編(1972)『満州航空史話』満州
航空史話編集委員会.
長澤良太・今里悟之・渡辺理絵(2004)「旧日本軍撮影の
空中写真の特徴とその利用可能性」『日本地理学会発
表要旨集』66, 66 頁.
西尾元充(1969)『空中写真の世界』中公新書 186.
東北大学大学院理学研究科地理学教室(2003)『東北大
学所蔵外邦図目録』東北大学大学院理学研究科地理
学教室.

空中写真要図(大阪大学文学研究科人文地理学教室蔵)目録

地方	タイトル	撮影	測量	製図 1	作成主体	縮尺 2	寸法(cm)	色	経緯度	
中国	同江附近國境要図其一		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	同江附近國境要図其二		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	同江附近國境要図其三		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	同江附近國境要図其四		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	同江附近國境要図其五		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	同江附近國境要図其六		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	虎林附近國境要図其一		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	虎林附近國境要図其二		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	虎林附近國境要図其三		1934	1935版	参謀本部	2.5	108.5*78.5	黒		
	要圖(空中寫眞測量)北支那十方分一圖 開封七號尉氏	1942.8	1942.11			北支那方面軍参謀部測量班 作成	10	39*54.6	黒	
	要圖(空中寫眞測量)北支那十方分一圖 徐州十九號亳縣	1942.8	1942.11			北支那方面軍参謀部測量班 作成	10	40*54.9	黒	

中国	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封十一號鄭州	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	38.9*54.6	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封十二號新鄭	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39.9*54.7	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封十六號汜水	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39*54.7	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封六號開封	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	40*54.6	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封十四號臨潁	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	40*54.7	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封九號逍遙鎮	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	38.9*54.8	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封十五號舞陽	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	40*54.6	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封三號太康	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39*54.6	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 廬州二十一號沈邱	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39.2*54.5	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 信陽一號項城	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39.9*54.8	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 徐州二十三號柘城	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39.1*54.7	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 徐州二十四號鹿邑	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	40.1*54.7	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封四號淮陽(陳州)	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39*54.6	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 開封十號上蔡	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39*54.7	黑	
	要圖(空中寫真測量)北支那十萬分一圖 徐州二十號原牆集	1942.8	1942.11		北支那方面軍參謀部測量班 作成	10	39.8*54.6	黑	
	假製五萬分一黃河沿岸空中寫真測量要 圖狂瀾鎮	1938.4	1939	1939.12癸	陸地測量部 參謀本部	5	46*58	黑	
	假製五萬分一黃河沿岸空中寫真測量要 圖坡頭鎮	1938.4	1939	1939.12癸	陸地測量部 參謀本部	5	46.1*58	黑	
	五萬分一空中寫真測量要圖蕪湖六十一 號太平	1939.12	1941	1941.3癸	陸地測量部 參謀本部	5	46*57.8	黑	
	五萬分一中支空中寫真測量要圖蕪湖六 十七號石山舖	1939.3	1940.1	1941.2癸	陸地測量部 參謀本部	5	46.2*57.9	黑	
	要圖(空中寫真測量)中支那五萬分一安 徽江西省境東流景德鎮地方七號(共二 十三面)湖湖街	1938.3- 11	1941	1941.7癸	陸地測量部 參謀本部	5	46*58.8	黑	
	五萬分一黃河沿岸空中寫真測量要圖磁	1938.4	1939		陸地測量部 參謀本部	5	46.1*58.1	黑	
	五萬分一黃河沿岸空中寫真測量要圖陝	1938.4	1939		陸地測量部 參謀本部	5	46*58	黑	
	五萬分一黃河沿岸空中寫真測量要圖白	1938.4	1939		陸地測量部 參謀本部	5	46*58.2	黑	
	五萬分一黃河沿岸空中寫真測量要圖段	1938.4	1939		陸地測量部 參謀本部	5	46*58.1	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)約一萬五 千分一慶元近傍			1943.7調	支那派遣軍參謀部調製	約1.5	42.5*50.4	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)約一萬五 千分一梁山近傍			1943.6調	支那派遣軍參謀部調製	約1.5	37.3*47.8	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)約一萬五 千分一? 江近傍			1943.6調	支那派遣軍參謀部調製	約1.5	48.4*43	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)約一萬五 千分一秀山近傍			1943.7調	支那派遣軍參謀部調製	約1.5	39.9*31.1	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)約一萬五 千分一遵義近傍			1943.7調	支那派遣軍參謀部調製	約1.5	35.9*45.1	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)一萬分一 黔江近傍			1943.6調 1943.6刷	支那派遣軍參謀部調製 支 那派遣軍測量班製版印刷	1	51.1*61.1	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)一萬分一 蕪縣近傍			1943.6調	支那派遣軍參謀部調製	1	42.8*50.5	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)約一萬五 千分一貴陽近傍			1943.6調	支那派遣軍參謀部調製	約1.5	46.3*60	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)一萬分一 南川近傍			1943.6調	支那派遣軍參謀部調製	1	32.6*46.5	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)一萬分一 恩施近傍			1943.6調 1943.6刷	支那派遣軍參謀部調製 支 那派遣軍測量班製版印刷	1	53.7*47	黑	
	空中寫真測量要圖(圖化滿航)一萬分一 梓潼近傍			1943.6調 1943.6刷	支那派遣軍參謀部調製 支 那派遣軍測量班製版印刷	1	48*53.4	黑	
空中寫真測量要圖(圖化滿航)一萬分一 ? 州近傍			1943.6調 1943.6刷	支那派遣軍參謀部調製 支 那派遣軍測量班製版印刷	1	58.9*46.5	黑		
要圖(十萬分一陝西省空中寫真測量)宣 川七號延水關	1939	1939	1939癸	陸地測量部 參謀本部	10	58.3*46	黑		
要圖(十萬分一陝西省空中寫真測量)宣 川十三號牛武鎮	1939	1939	1940癸	陸地測量部 參謀本部	10	58.3*45.8	黑		
要圖(十萬分一陝西省空中寫真測量)宣 川八號禹王坪	1939	1939	1939癸	陸地測量部 參謀本部	10	45.4*58.3	黑		

中国	要圖(十万分一陝西省空中寫真測量)宣川十四號宣川	1939	1939	1940発	陸地測量部 参謀本部	10	46.2°58.1	黒		
	要圖(十万分一陝西省空中寫真測量)宣川十五號縣川口	1939	1939	1940発	陸地測量部 参謀本部	10	58°45.8	黒		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍南部十七號橫雲山	1932	1937	1937.11版 1937.11.25	陸地測量部 参謀本部	2.5	45.8°57.9	黒・青		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍西北部十三號巴城鎮	1932	1937	1937.11.5発 1937.11.5	陸地測量部 参謀本部	2.5	46°57.5	黒・青		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍南部二十七號乍浦鎮	1932	1937	1937.10版 1937.10.25	陸地測量部 参謀本部	2.5	46°57.8	黒・青		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍西北部九號澆浦鎮	1932	1937	1937.11版 1937.11.5発	陸地測量部 参謀本部	2.5	46°57.5	黒・青		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍西北部十九號夏灘橋	1932	1937	1937.11版 1937.11.5発	陸地測量部 参謀本部	2.5	46°57.5	黒・青		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍南部七號馬橋鎮	1932	1937	1937.11版 1937.11.25	陸地測量部 参謀本部	2.5	46.4°57.6	黒・青		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍南部八號?家橋	1932	1937	1937.11版 1937.11.25	陸地測量部 参謀本部	2.5	45.9°58.2	黒・青		
	二万五千分一空中寫真測量上海近傍南部六號柘林鎮	1932	1937	1937.10版 1937.10.25	陸地測量部 参謀本部	2.5	46.1°57.9	黒・青		
	空中寫真測量要圖雲南省五万分一圖怒江一號(共七面)瀾八?	1943.10		1944.4圖	威第一一六〇部隊	5	45.9°57.4	黒	N25°5 E99°5	
	空中寫真測量要圖雲南省五万分一圖怒江二號(共七面)馬通橋	1943.10		1944.4圖	威第一一六〇部隊	5	46.1°57.9	黒	N24°55 E99°5	
	空中寫真測量要圖雲南省五万分一圖怒江三號(共七面)椅子山	1943.10		1944.4圖	威第一一六〇部隊	5	46.1°58.1	黒	N24°45 E99°10	
	空中寫真測量要圖雲南省五万分一圖怒江四號(共七面)栗樹坪	1943.10		1944.4圖	威第一一六〇部隊	5	46.1°58.1	黒	N24°35 E99°10	
	空中寫真測量要圖雲南省五万分一圖怒江五號(共七面)打黑渡	1943.10		1944.4圖	威第一一六〇部隊	5	46.1°58	黒	N24°25 E99°15	
	空中寫真測量要圖雲南省五万分一圖怒江六號(共七面)七道河渡	1943.10		1944.4圖	威第一一六〇部隊	5	46.1°57.9	黒	N24°15 E99°10	
	空中寫真測量要圖雲南省五万分一圖怒江七號(共七面)尖山	1943.10		1944.4圖	威第一一六〇部隊	5	45.9°57.7	黒	N24°15 E95°55	
	インド	要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間一號シルガード	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46.1°58.1	黒	N36°40 E98°0
		要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間二號サマガリ	1942.10	1942	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°58	黒	N26°30 E93°0
		要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間三號ナマティ	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.2°58.2	黒	N26°9 E93°0
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間四號ナウゴン		1942.10	1942	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46.1°58.2	黒	N26°25 E92°45	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間五號ラハ		1942.10	1942		陸地測量部 参謀本部	5	46°58.2	黒	N26°15 E92°45	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間六號グラムタル		1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	45.9°58	黒	N26°17 E92°30	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間七號ナコラ		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.6°58.3	黒	N26°15 E92°15	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間八號ガウハティ		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.9°58.1	黒	N26°20 E91°57	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間九號ディスブル		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.8°58.2	黒	N26°10 E92°0	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十號ノングボ		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.7°58.2	黒	N26°0 E92°0	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十一號ウムスニン		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.8°58.3	黒	N25°50 E92°0	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十二號シロン		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.7°58.2	黒	N25°40 E92°0	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十三號マウフラン		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.7°58.2	黒	N25°30 E91°52 30	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十四號チェラブンジ		1942.10	1942	1942.10発	陸地測量部 参謀本部	5	44.6°58.2	黒	N25°20 E91°52 30	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十五號ラウテ湖		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.7°58.1	黒	N25°10 E91°52 30	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十六號スルヘット		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.6°58.3	黒	N25°0 E92°0	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十七號フェンチュガン		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.8°58.4	黒	N24°50 E92°5	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十八號クラウル		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.2°58.3	黒	N24°40 E92°10	
要圖(空中寫真測量)東印度シルガード・ミメシ間十九號カマルガン		1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	46.1°58.2	黒	N24°30 E92°05	

	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十號スリマンガル	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.7°58.3	黒	N24°25	E91°50
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十一號シャイスタガン	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.8°58.2	黒	N24°20	E91°05
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十二號ハラシュブール	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.7°58.2	黒	N24°10	E91°30
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十三號アカウラ	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.9°58.3	黒	N24°0	E91°20
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十四號アゴウタラ	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.6°58.3	黒	N23°50	E91°20
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十五號パイラプザー	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.4°58.3	黒	N24°5	E91°5
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十六號カティアディ	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.3°58.4	黒	N24°15	E91°0
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十七號マイジャテ	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.8°58.3	黒	N24°25	E91°0
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十八號キョルガンジ	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.9°58.3	黒	N24°25	E90°55
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間二十九號アトラバリ	1942.10	1942	1942.11発	陸地測量部 参謀本部	5	44.8°58.3	黒	N24°45	E90°50
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間三十號ミメシ	1942.9-10	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	45.9°58.1	黒	N24°50	E90°35
	要圖(空中寫眞測量)東印度シルガード・ミメシ間三十一號マイラー・カンダー	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°57.9	黒	N24°55	E90°50
インド	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間一號ガウハティ西部	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	45.8°58	黒	N26°15	E91°50
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間二號パスパーリ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°58.2	黒	N26°10	E91°35
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間三號ランパーラ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°58.3	黒	N26°5	E91°20
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間四號ティラーパーラ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°58.2	黒	N26°5	E91°5
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間五號ゴアールパーラ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46.1°58.2	黒	N26°20	E90°50
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間六號クリシナイ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°58	黒	N26°10	E90°50
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間七號ドゥドナイ	1942.9	1943	-	陸地測量部 参謀本部	5	46°58.1	黒	N26°0	E90°50
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間八號ザハーダングリ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°58.1	黒	N25°50	E90°45
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間九號アギア	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	45.8°58	黒	N26°10	E90°35
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間十號ラキープル	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46.1°58.2	黒	N26°5	E90°0
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間十一號ガウリブル	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	45.8°58	黒	N26°10	E90°5
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間十二號ファーキールガン	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46.1°58.1	黒	N26°0	E90°5
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間十三號パンバラ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	46°58.1	黒	N25°50	E90°5
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間十四號ジャーウダーン	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	45.9°58.1	黒	N25°40	E90°0
	要圖(空中寫眞測量)東印度ガウハティ・ポルダムギリ間十五號ポルダムギリ	1942.9	1943	1943.1発	陸地測量部 参謀本部	5	49.2°58	黒	N25°30	E90°0
	フィリピン	カガヤン近傍圖第一號 1:50,000 カガヤン		1944	1944.9複	尚武一六〇〇部隊 威一五八八五部隊測量 参謀本部	5	46.7°63.5	黒	
カガヤン近傍圖第二號 1:50,000 ルンビヤ			1944		尚武一六〇〇部隊 威一五八八五部隊	5	47°64.9	黒		
ボルネオ	空中寫眞測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹参ロー一四タンビサン	1944.8		1944.9圖 1944版	参謀本部	10	46.2°58.3	黒	N5°40	E119°30
	空中寫眞測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹参ロー一五アアム	1944.8		1944.9圖 1944版		10	46.3°58.2	黒	N5°20	E119°30
	空中寫眞測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹参ロー一四セガマ河	1944.9		1944.10圖 1944版	参謀本部	10	49.9°63.2	黒	N5°40	E119°0
	空中寫眞測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹参ロー一四マクオ	1944.9		1944.10圖 1944版	参謀本部	10	46.2°58.1	黒	N5°0	E119°0

ボルネオ	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー三六コナック	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	46.1*58.1	黒	N5°0	E118°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー三三サンダカン	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	46.2*58.4	黒	N6°0	E118°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー三二ニリ balan 島	1944.8	1944.9圖 1944版	參謀本部	10	46.2*58.1	黒	N6°20	E118°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー二七シンボルナ	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	46.1*58.1	黒	N4°40	E119°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー四二クラガン河		1944版	參謀本部	10	46.2*58.2	黒	N6°20	E118°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー五一ションプロ灣	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	46.1*58.1	黒	N6°40	E117°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー五三ノ上クラガン	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	31.2*57.9	黒	N6°0	E117°80
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー五二ニリカバウ	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	46.2*58.1	黒	N6°30	E117°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー六一ランコン	1944.8	1944.9圖 1944版	參謀本部	10	46.2*58.2	黒	N6°40	E117°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー六二キナバル山	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	46.2*58.2	黒	N6°20	E117°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー六三ノ上ラナウ	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	31.8*57.8	黒	N6°0	E117°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー四三ラボック河口	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	57.2*62.9	黒	N6°0	E118°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー四一トルサン	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	46.2*58.1	黒	N6°40	E118°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー三八ノ上バロン川	1944.9	1944.10圖 1944版	參謀本部	10	31.5*58.1	黒	N4°20	E118°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー五八ノ右シマンガリス川	1944.9	1944.9圖 1944版	威第一一六〇部隊	10	54.2*39.3	黒	N4°20	E117°90
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー五九ノ右ブラジュ	1944.9	1944.9圖 1944版	威第一一六〇部隊	10	54.2*39.2	黒	N4°0	E117°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー五九バング島	1944.8	1944.9圖 1944版	參謀本部	10	52.4*63.1	黒	N7°20	E117°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー六〇セナジャ	1944.8	1944.9圖 1944版	參謀本部	10	47.2*67.3	黒	N7°0	E117°30
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー六九バランバガン島	1944.8	1944.9圖 1944版	參謀本部	10	56.1*58.2	黒	N7°20	E117°0
	空中寫真測量要圖「ボルネオ」十万分一圖壹參ロー七〇クダト	1944.8	1944.9圖 1944版	參謀本部	10	46.2*58.2	黒	N7°0	E117°0
セレベス及モルカ	空中寫真測量要圖「ハルマヘラ島」十万分一圖壹イニ四モロタイ島西南部	1944.2	1944圖	空中寫真測量要圖陸地測量部參謀本部	10	46.5*58.1	黒	N2°20	E128°30
	空中寫真測量要圖「ハルマヘラ島」十万分一圖壹イニ五七ジャイロロ	1944.2	1944圖	空中寫真測量要圖陸地測量部參謀本部	10	46.3*58.1	黒	N1°20	E127°30
	空中寫真測量要圖「ハルマヘラ島」十万分一圖壹イニ五九テドレ島南部	1944.2	1944圖	空中寫真測量要圖陸地測量部參謀本部	10	46.5*58.2	黒	N0°40	E127°30
	空中寫真測量要圖「ハルマヘラ島」十万分一圖壹イニ四七トリア山	1944.2	1944圖	空中寫真測量要圖陸地測量部參謀本部	10	46.8*63.7	黒	N1°20	E128°0
	空中寫真測量要圖「タラウド諸島」集成圖	1944.4	1944版	參謀本部	10	109.2*78.5	黒	N6°	E128°
バプア	空中寫真測量要圖「東部バプア」十万分一八南ロー一四ニサウナンブ	1943.8	1943圖	陸地測量部 參謀本部	10	44.8*64.1	黒	S3°40'	E143°0'
	空中寫真測量要圖「東部バプア」十万分一八南ロー一七ワバグ	1943.7	1943圖	陸地測量部 參謀本部	10	45.1*64.1	黒	S5°20'	E144°0'
	空中寫真測量要圖「東部バプア」十万分一八南ロー一五バナロ南部	1943.8	1943圖	陸地測量部 參謀本部	10	45.1*64	黒	S4°40'	E144°30'
	空中寫真測量要圖「東部バプア」十万分一八南ロー一五アウィム	1943.8	1943圖	陸地測量部 參謀本部	10	45.1*64.2	黒	S4°40'	E144°0'
	空中寫真測量要圖「東部バプア」十万分一八南ロー一三ワオセラ	1943.8	1943圖	陸地測量部 參謀本部	10	44.7*64	黒	S30°40'	E143°30'
	空中寫真測量要圖「東部バプア」十万分一八南ロー一三カンプリンロ	1943.7-8	1943圖	陸地測量部 參謀本部	10	45.1*64.1	黒	S4°0'	E144°0'
太平洋諸島	空中寫真測量要圖「セントアンドレウ諸島」集成圖	1944.4	1944版	參謀本部	10	46.1*58.1	黒	N8°0'	E135°0'

1:圖 測圖年・版 製版年・発 發行年・調 調製年・印 印刷年・複 複製年をそれぞれ表す。 2:縮尺の分母を示す。単位は万。